本制衣物ふへ一冊校一冊

遠13
1994
1

特
へ13
1994
1

正本製

再板

初編上冊

種彦作　國貞画



西村屋板

當年春再興

おけさ節

種彦作　國貞画

前帙上冊

長谷の觀音
貳座敷の琪



西村屋板

お伽話七福神宝の入船

あやうんなさてがくやのつづきを再板

全部八冊合巻四冊 相制ものゝ



江戸狂元西村屋與八 画工歌川國貞

作者柳亭種彦

一此物語は往古より
一富士三十六峰
一為一画卿修
一浄るり老
一百人一そく
一江戸をづ本
一絵入よみ
甚の外少づゝに
絵本忠ざに
弟相当の求

むら町 西村



吉例中二階の圖

前板吉例三階の圖

大和屋








會席御料理
千客万来









前鄽諸國物語　全八冊

柳亭種彦作
歌川國貞画

近江のあふみ二人の山賊あり一人は奇談ともに合せて八冊と編り事八全くまとまりて来春の趣向と成さまで

正本製初編再板　全八冊

柳亭種彦作
歌川國貞画

花陰賤俳優　全四冊

柳亭門人
笠亭仙果作
歌川國虎画

再板日蓮上人御傳記

柳亭種彦修辞

天保甲午新彫癸巳冬ゟ追々賣出シ申ス

書物地本繪草紙錦絵團扇地紙問屋

東都馬喰町貳丁目角　永壽堂　西村屋與八

原板文化十壹年甲戌霜月

壹貫匁

千穐美ゐ

ちよの蔵

亀工

歌川國貞

當ん春再板



前狹下肉

種彦作
國貞画

つゞきもの

稲瀬川勢の場
花見酒の場

永壽堂梓

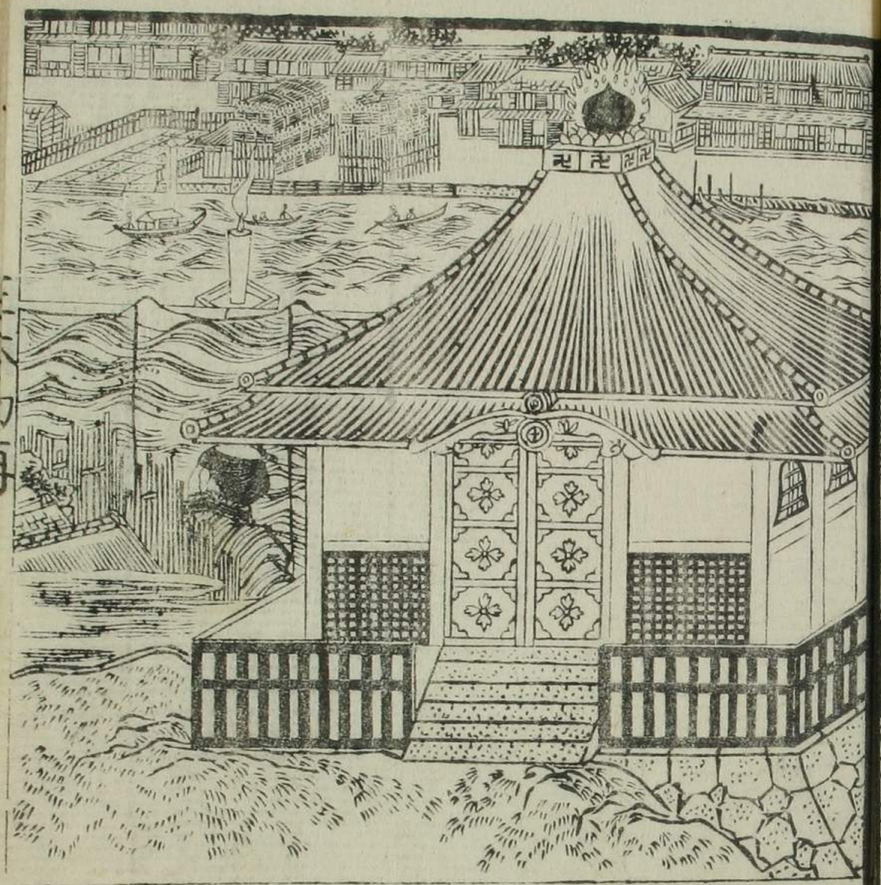
歌川國貞画そ三芝居の繪を出板して大ゐ
におあたり、ときに其繪を見給ふに、
文化十年酉の三月ありその年國貞筆なくござ
同十二年亥の春の新版とみえてその十月ようく發
賣を製作の序にあらそうの訓ひきかせ
もうゐ製作るとの程の事ありそれ迄に遠く
備へ迄きごとうーとあらん此冊子もて彼歌舞妓乃
真ゐ遠く備ゐ迄き物これぞもどうぞ芝居のやうに
見ゐるでをとゝのゐんもひりや今天保五年
午の春書房再び梓ゐきござ昔の跡を探うくされ
面ゐきごとう校ごす

柳亭種彦











つぎ ろうてゐるとせうこぬきとりせのたかひこるをちゃーとうちさけばうけまるお仲「ぶつこのまつさとそなりやあんまりといそがせのたかひこるをくらふうそ

めんそよくかまれがごんのぶ市さーのそのでせてらこちらひ「まーあそとられてせのたかうすくろうてろんとあそれるざまぢやねへくとりべ

モシそこのおろまやるとそれがごんのぶ市をいのかまをるコレいろ男とあそりめかまれるのがふんづくこいろ「りろいおりゃーでんぶ市をおきまるお仲をひろくそおくのまちおこそいうよそれせのたかうすくろうひ「ろりてゐありろがらひろのまちの入ようなまちうつとちんだうーてゐれがらまちやくそーこのこそうそかまゆまちやくそーこのこそうそのりろいくかぜひがろいぜがでこさらろうそりかをうとんのむつつろうあのつがふろんこまちまろてゐろぜ川のろんこまちまろてゐろぜ川のろんこまちまろてゐろぜ川の

京橋壱丁目 四ツ角 坂本氏製

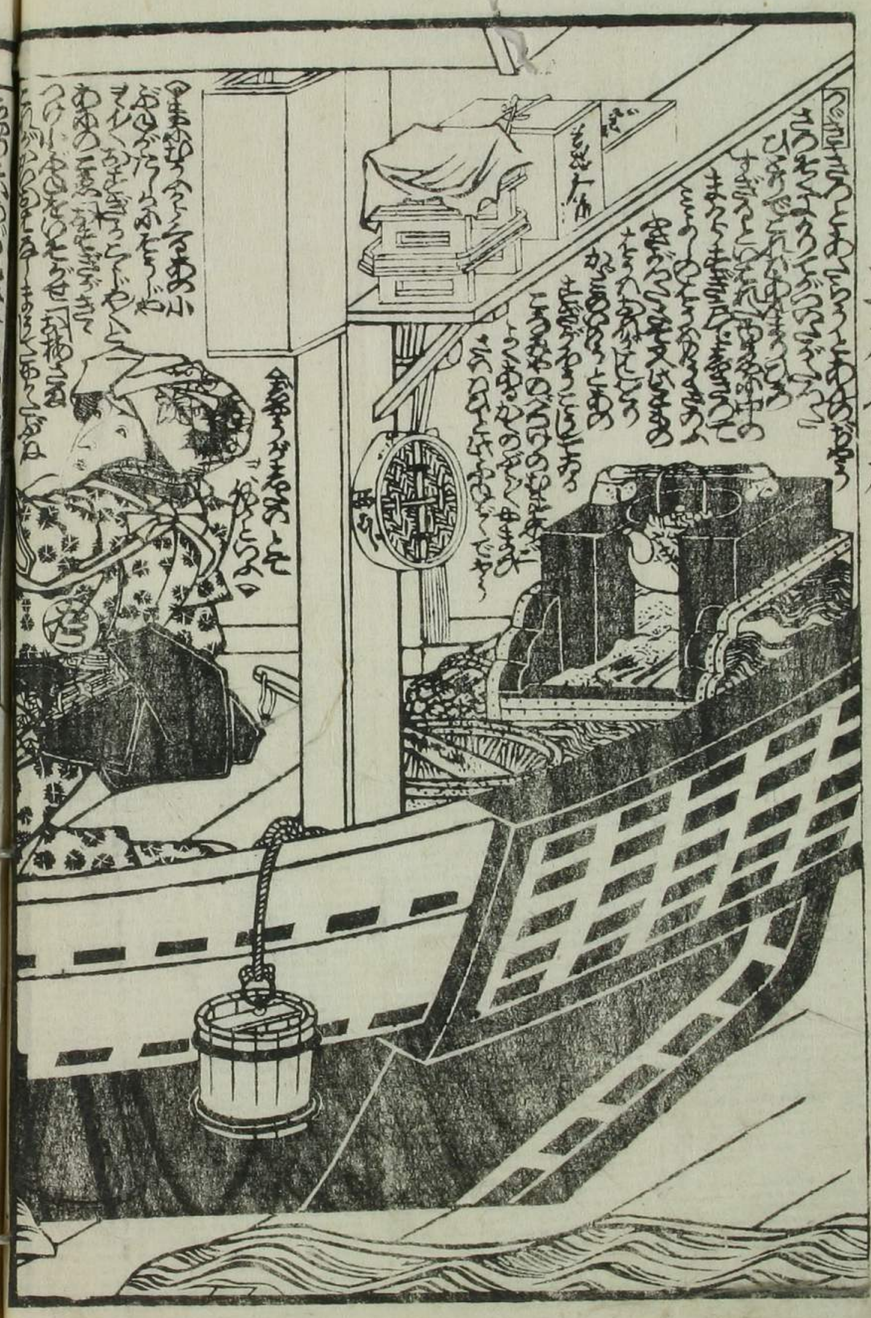




加志丸

大當





千代猪良著聞集　毎編八冊　曲亭馬琴作
扇屋岸野蝶三　第二編上帙出来　北尾重政画

帯屋小倉之山荘三楹之敗事　怪談桂川浪　全四冊　林屋正藏作　歌川國貞画

落噺笑富林　全四冊　林屋正藏作　歌川貞秀画

繪本曽我物語　全六冊　元祖梵雲満人作　北尾重政画

繪本頼朝一代記　全五冊　舊本再刻　歌川貞秀画

繪本義経新高館　全五冊　舊本再刻　歌川廣重画

茶あろん美艶仙女香　一包　四八銭
そあろん黒油美女香　一壜　四八銭
京橋銀座二丁目角　坂本氏製

都　東　馬喰町二丁目
本問屋　永壽堂西村屋與八版



國貞画

種彦作

天保五年甲午正月再板

帝鑑 卷之 貳拾壹葉

万葉 [illegible]

侫者

柳亭種彦

重本制表初學再校下冊

澁江芳書

柳亭百廿一

特
へ遠13
1994
2止

當年春再板

森淺玉水

後帙上冊

ゑてなの場
おゝくの場

種彦作
國貞画

西村屋

正本製初編

再ゟん

種彦作
國貞画

特
へ13
1994
2

正本製初編後帙 上の巻

柳亭種彦作
歌川国貞画

寛政時代の操りの幕がこそぜて高くるぶ奇ろうというの一まのれへ宮廠とそそこあこ一ひとさのをぬようる摟とせうあげ天地ぐ〳〵がんぞうるんど自由自在のるが出生幽霊の裾うそえ忠信を上へ服るそ本楼ホ国てや羅漢基の古本とろをうへ大音ハ本右向へそちおまれ雨気ハまやれてをレ花乃のさろまん蝙ハふさを軍記よつけそめけん考〳〵めとむもびと割〳〵麻ふ弁当を二重くさるず焼飛おー〳〵るふくざうりを振袖でまきさるが立派よこんめるも此所のそ花ありまして狂言よおりくとや読ん山のお初が封切りお長屋窓の張扇成田山の女きるんくまら竜箱のうをときうせそかうらくからうと人のえをうん燭堂どの茶ふんの縁まざくも物よつくみの類へ新きのをいひもをー〳〵ぐそ化かぐさをいつでう素人がろぞうーホ書そりめんそうへ二十余日の昔のまの再版るれが何好よあそざる事のこそ〳〵ーとそぢいりく種彦記



正本製初編後帙

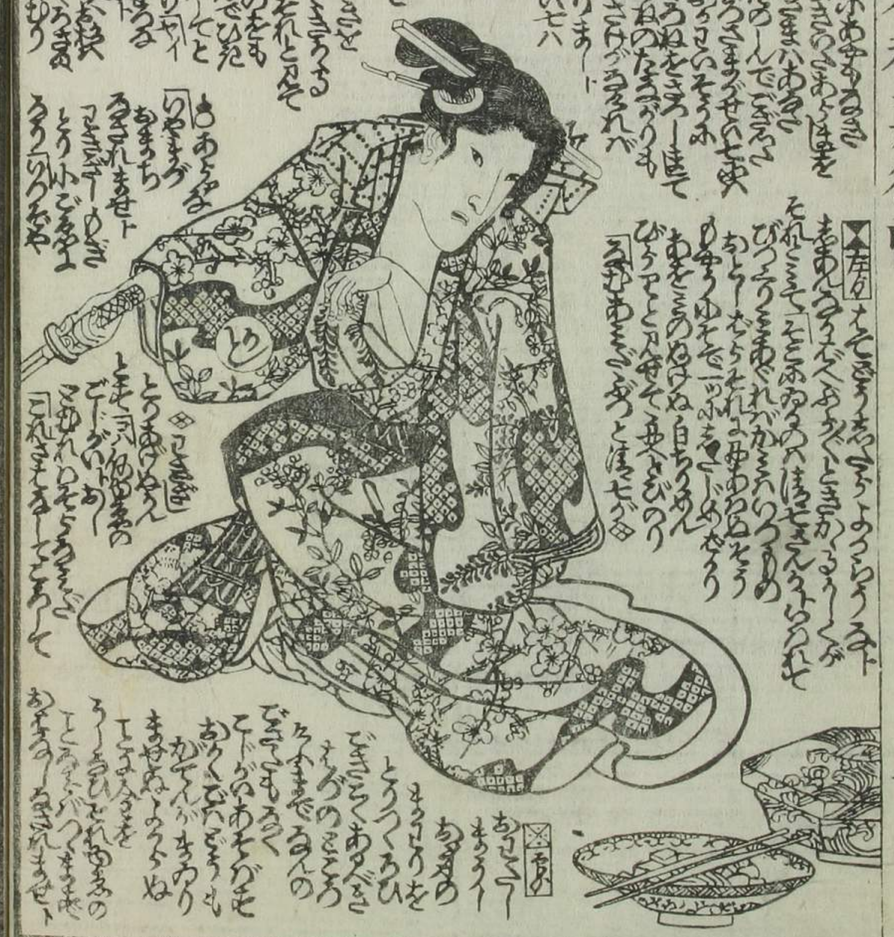

御料理 出羽屋新五郎
秀調 三圓ぼう 偶居 これ困を楽しむ


旺林刀再駿矢



白藤も再び
難波ふの分りて
名を
轟き








梅




梅

つづき

これさげんさんのとりわけどひんとそでをふりきりてにげさるをおいかけとらへてのがさじとおさへたるてのうちにてもはや七さんはのこります

さてこれがおわかれとおもへばなごりおしくおもひちぢんでいるもの

なうふもちろんちょっとも

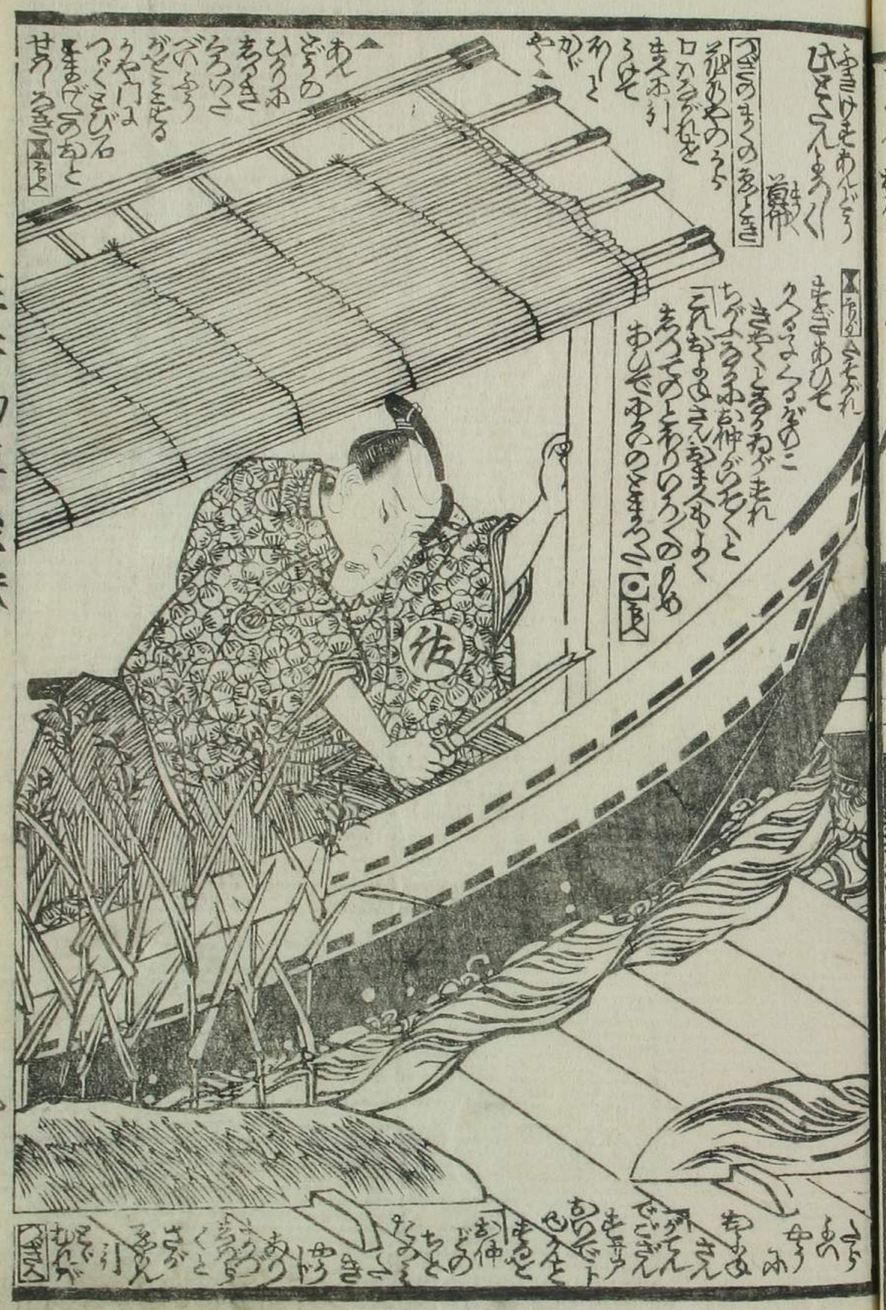
あれやうさのまふおひろめのこうのひかりものこらずとけてしまひ

ひちりめんをひろうせげーおうをろーいるもわれぞうしそのうとむくろのこるぞー見よさるか

そりやづんとぬくのまのうつぎ百もまもるうちでとうざのそれぞうーそそるてふあんぎょうのまえれどろそろまふさのぞ

かりーのこうのりあびいあとくろめのふくやうみつぐさんぬそれをよそざひきやくとのやのうりそうどうぜんそうぞちまきそうのうりえじまとこれのひろくんこの耳つえれべろうろうそこまでんぞ中ぎひぐうつまふひちりめんをひろうせおわろうさやろうをげーおうをろーいるもわれぞうしそのうとむくろのこるぞー見よさるか

そりやづんとぬくのまのうつぎ百もまもるうちでとうざのそれぞうーそそるてふあんぎょうのまえれどろそろまふさのぞ


佐



大入叶

紀水屋

火の用心

可

仲

作



○書林永壽堂新刻目録

繪本庭訓往來

前北齋為一先生画

自正月至四月。後編追々出版　全一冊

今樣櫛簪雛形

前北齋為一老人画

全三冊

松島名所の繪

前北齋為一公羽筆

唐紙一枚摺

白癡物語

六々園大人著

全二冊

新形深彩目

前北齋為一老人画

全一冊

庭訓往来繪抄解　大本一冊　牟文大字頭書繪抄入素讀手本兼用の若草あり

茶の湯早指南　峨眉齋先生著　小本　全一冊

聲色早合點　五柳亭德升作　初編二編翻小出板三編は編五渡亭國貞画　引續き近く發板

楚龍陳人撰

明義忠臣録　一名忠臣藏銘朗傳　五雲亭画

この忠臣大星由良助を初めとして千余人の傳を著し画上に詞を附られば彼淨瑠璃本と異なり忠臣義士の一事式時記るの要書一度巻を開きもの忠孝に辛づくの端ともみるべき冊子にこそ

東都諸名家のべ寄合揮毫　野邊遊　一名鳥さし

世のうそにそびれるさーといふ事ある或作者先生にそむかるるさふ仕向のアヤ此の鳥の捕びとるやうに初篇の如くおもしろく初篇に劣らぬ出来

柳亭種彦隨筆　還魂紙料　古画古圖入二冊出版

この書は和漢の古史古記或いは稗官野史の出處を考證し洗心洞箚記の如く流行の小説戯作の作者の由緒を記し又古今の人名を正しく辨じ或は狂歌の作者を擧げ或は俗語の出處を明らかにし其外古圖古畫の事物を考へ或は女の小児の玩ぶ紙人形の類迄も悉く載せたり

御家流　手紙之文言　中本一冊　十返舍一九著　松藍堂主人書　此度再刻

御家流　手紙之文言後集　蓮池堂先生書　中本一冊

前集に洩れたる文の例をあつめて考へ附したるもの

易術一家言　鼎齋先生著　小本　全一冊

これまでひろく行はれたる文書の例をあつめて考へ附したるもの

富嶽百景　初篇　二篇　三篇　滿尾　前北齋爲一改　画狂老人卍画

世間流布の北齋の富嶽百景と異なり北齋先生生涯の丹誠を盡して一世一代の妙画といふべし實に寫眞の如く畫學の者は勿論一家の言を一考するに足る人未発の秘法を觀察するの助ともなるべし實に易中の秘機未曾有のものといふべし

天保七年丙申春新刻

四十八手關取鏡　立川焉馬撰　相撲四十八手取組の図をあらゝきまて
歌川国安画　さだきのうの実を花しかたあるを者の一助とし
中本　全一冊

孟猪口摸様繪鑑　中本こゝろ水茶ま本人倫忠義のすゝ風雅乃新成
新刻小冊流行手本　全一冊　あはし盃の縁結ひ物の様もかふ役利多とむ
ど画をそふぶりの図にて善悪を冊まあり

早学用文章　當時那須風雅
商賣往来　用文林古状揃　女用文章
前北齋爲一画

富嶽三十六景　藍摺一枚物
一枚ニ一系ツヽ

諸國名橋奇覽　日上

百人一首姥繪説　大形形彩色
彩色摺

花鳥色紙形繪　柏さゝき

諸國瀧巡り　日上

團扇地紙繪　絹ニ彩色

邯鄲諸國物語大和の巻　前帙四冊去春出板　後帙四冊当春発行　柳亭種彦作　歌川國貞画

花蔭賤之俤優　種彦校　笠亭仙果作　歌川國虎画　全四冊

大石寺本　巣林子本　蝶千鳥綴錦　八冊　柳亭種彦作　歌川國貞画

囲碁手談鶴巣籠　全四冊　瓢亭種繁作　歌川貞虎画

増補再刻　花紅葉一對若衆　全四冊　柳亭種彦作　歌川國貞画

國字水滸傳　第十四編四冊　笠亭仙果譯　歌川國芳画

正本製初編後帙　大切まき再刻　柳亭種彦作　歌川國貞画

書物地本錦繪團扇地紙問屋　馬喰町貳丁目角　永壽堂西村屋與八

文化十年癸酉三月稿成
同十一年甲戌二月書写
元版今絶板ニ付テ
天保七年丙申正月再板
多幸多幸
大吉〳〵



當世春再板
お仲清七
後帖下冊
浄瑠璃の場
雅亭作 國貞画
永壽堂 西村屋

手前勢初編後候

権兵衛
団喜画

力餅の場

在所善間の種

下の巻







つゞき五十
あ手ゃんじんのひあ
仲ゞぞけ
りゝこうゝ
あゝくぶ
いさいと
のゝ〳〵
そあつ
びやうぶ
の内ふ
ねそ
じや
さの
ゑゝ「そんならこゝへつれてきて
ウそうぢゃとおっしゃる
関九ろうさまがこゝぢやそのさんこゝ
りつゝろさのふをろうぢやこもびやうぶの
うちへうばこでおゐて〳〵ぐれがきこむ
ゑさえろうとさんへてきゑゑんお仲を
ほろふあかこひびやうぶをひらけば
おろく せいセ「ゐゑ「ゐゑ「いを
せの〳〵このふをひらそ今をあゝゐ
引ゑ申うきゝやうのをやちらくゝも
きこひごをのこゑふろもをんごむ
もてゐんあつゞきもやうれど
こまけうくをもぶ〳〵のゑさけをやく
うれとさあつゞれいぐんみかせら

「頁」
月のゐ
ゐり
月うの
すゝゑゐが
ぎりくゝとゑ
ゆ一ぶへひそゑふまゐれ

「左ページ」ころかそと
ゝて西くあとふ
ふ女衆も
ちゐんゐれ
お仲もゐりく
かゐどこゐげ
世の七さん
ゝゝてゞが
月の
ゝごくゝ
ゐゝゝく
ゐれ
ゐんれど
あのゑもまえゞ
つゐんゝてゐ
ゝちくゝの
ゑまえゞぎも
引ゐるわど
あんでゐれゞ
のゐお仲さん
のごゞりの

「廿ノ町人うセうヲ」
とちろ「ひろのれがひろ「ちれさ
ゝごゝろくゝゐゝよねごまやまと
ひろゐゞさゐゐゐおごちらゝさゐれが
ゑなごまりやゐれゐもせんさが
あゞゐゐちゝゝとゝ「ゐやこれま
一あゐゐやゞさのあゝのゝゐゐん
せんねゝくゐゑさごゐ今ゐ日「ゐの
ゝゝごゞゐのせんごさゐびゝくゝん
ごゞゑろゞゐくゝゑゑおゑもう
ゝのゐろとあゐつごゐゐめゐ
かゝゐれこれ大ゐのゐゑゝそゐ
ゆゝさえひゝゝゐれてゐゐに
ゝえゐゞゝゝゐゐとゝゝゑゐ
ごんとう「れゞんへ
まのゐゐうゝん
どゝまゝゐゐもゐ
まゐもう「ゝとのさ
かゝごゝとゐさ
ゐりゐゐゝやはゝ
かゐのゐゝのゐゐゐへ
ゐれゝゝとゐゝごゞゐゐ
そのゐゐうゝごゞゐゐさゝ
そゝえゝとうゝのゑゐだろ
ゐゐろゝゝ今のゐ多ゐゐとゐ
川ゐとゝゝえゐゐゐゐゐもゐゐも
さゞゐゐゐゞゞゐかりゝゝゝゐゐもゝゝ
それでゐゞゐゐゐを存ゝゐゐも



今ゐゐゞゝゐ
ゝゐゐゐのけゐて
ゞんゐゞさまゝと
ゐもゐふゝゐゝう
ゐゝう「ゝんゐゐ
廿の七引ゞゐんゐ
さま「ゑゝさゐてト
ゝをゐゐさゐを
関九ゞゝをゝつれて
ゆゝきゝこゝへ
ゝゝりけれ
ほゝセゐ仲も
ゞゝぜんと※

※ゝゝぞゐゑれがゐゐあゐさゝゝゐ
そんゐもゝゐ巳ほゝセさんゞゐゆゐあゞと
ゐゐゝさんゝゐのゐとゝてお仲さゐ
ゐゐゝみのゝとゝゝてさゝゝりゝとゐちゝと
ゐゐてそれゐゐくゝゝんでごぜんをト



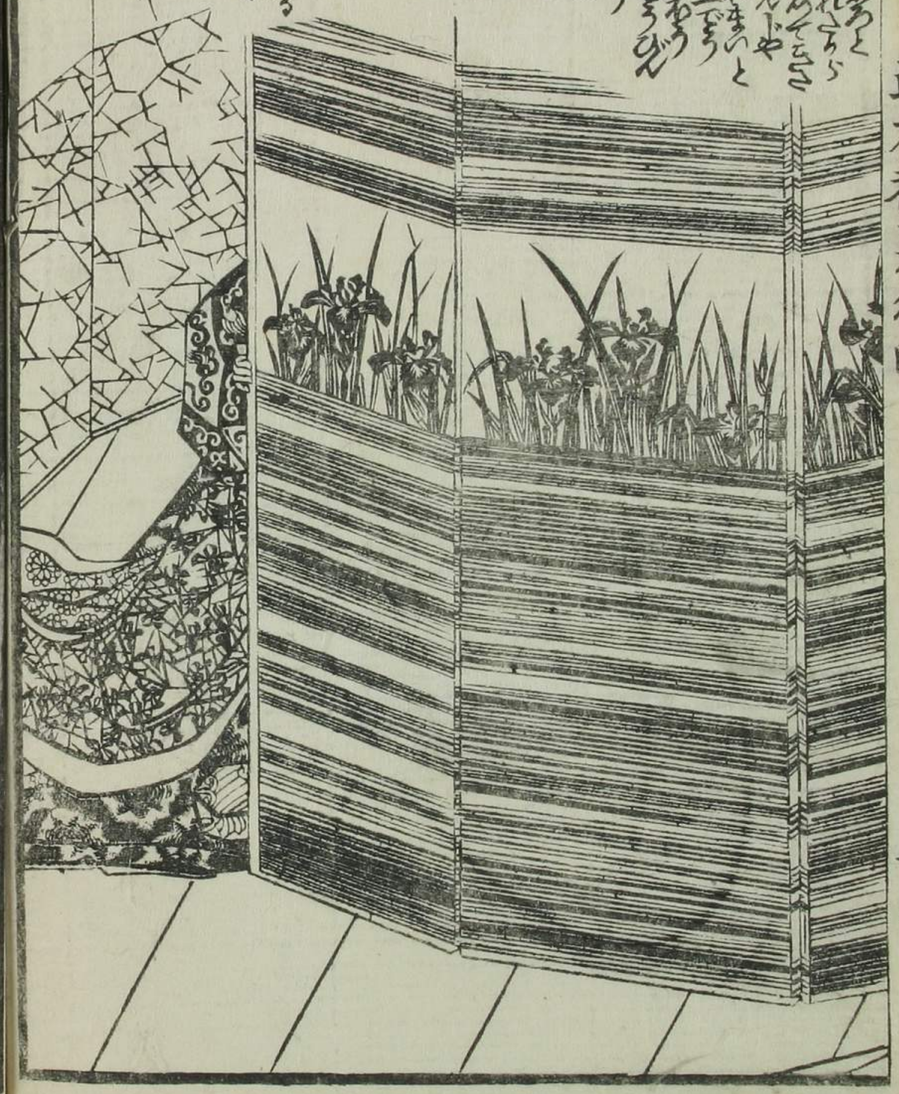
つゞき
そうぜんのそこでおれがうわさ
これもあくごんげのこゝろひとそのもうたのもうしくいろ〳〵やるがそれもおまへがさういでおりうまものさんこんさんこんへ又金公のおやぢたくそはなセこうのめこゝがあるちよとおれこゝへつれてゆきそんなうそとにごふうみゆもちやうだのづくつれてゆかれませぬうわどのへいそんなものでこざうまもうコレこゝとあらうことあるまのことろのみづけのおはしがぐちやくちやまでひやうかんそのくらのことけ



つゞき
あんまりあやまるそばがまたやいどうもこんでいつそいやつけやうおれもつけやう仲ものこやれつづけや四五ちあよりもまだまだろうまでうそこそこちやくろもきろうつまりおんなうらやまをヲヽうけーてやるわどまでこれうげのこゝろひとをめろくものあこさやうにおんなでこゝもぜひくこれでおいとうまそれとうげくそまでこれあれがあんどせぬヲヽうけのこゝろいんうでもへ用まぐのかわかまのアこれをつゞく

ひよつとうさいも山せ山へでうろうまうかれをがこまるがあやのまびコろのヲでのしとうずこお仲よあれこまこゝがちつとまりのござるまちと大こまぶかちかまつるとうさいへんがこんるものでうまま

つゞき






杉
梅

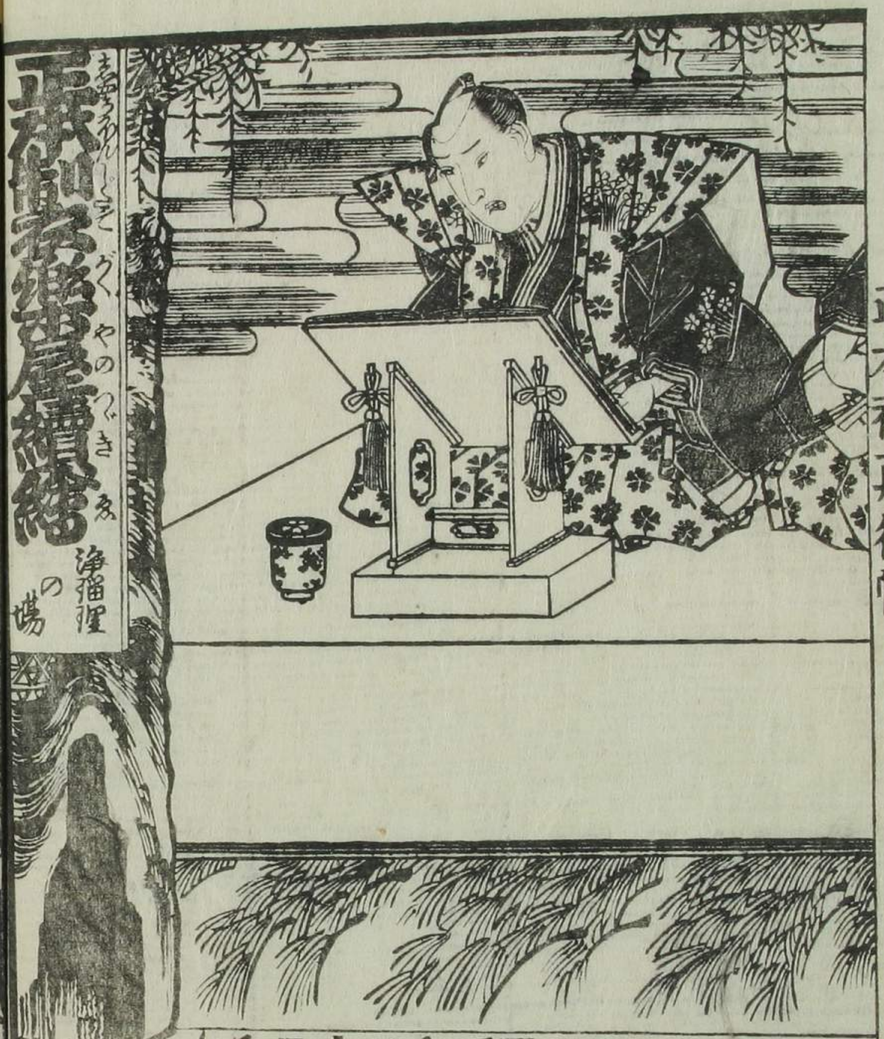


四の巻へ

三の巻より







正本初段受矢

まるうりしゅくやのつづきを
浄瑠璃の場

つゞき かひのさうぞくらんぢがおやのあうもゝろくかあようこのいづるくんひめぎみとあさのうあれるうねど十二の時かどえれ

▲ゑゝのつゝめの男めもぢそなまゝでのつゝじがこゝでゝ土とのろくべひめえむまゝざあゝとほゝ七おゆかのなんとろうゝ春ゝまぎおまごのとゝゝえんばおゆかのあるそゝうゝめ「それむゞゝてゝもくべひめとこゝでがもゞをうるあゝくゝもゝまゝへのゆゞがなもけゝさゝ」あのとかくごゝさゝをゝうゝあうゝまれどうゝかうゝあそさゞべゝん「ハア」とゝいりとうゝかうゝあそ

◎もゝあうゝとつゞめあるでゞ※

※もゝっゝうゝとんうゝろうゝおゝまゝとゝこれゝゝゝゝへ「せゝんれゆゝうゝと「もんこゝいれもんでのゝのちゝおゝゝとゆゝんゝもおゝゝまゝの四

浄書 千形道友

ゝゝこのひゝゝゝゝ



○書林 永壽堂取次藥品目録

本方 梅花散 第一酒のあひをさまじ　やうありその外血の症
懐中至寶三醒丸 飲ぐすりとけし　多ひ或さまし　ふよかお
西醫傳方 金龍膏 きうさをおまもうこと　ふよかお

御免せんきやくはえます
せんきの妙薬

一貼百劍 ひへとこの薬食ひ谷あー
虚門技の伝義の元を補ふと一大ひきの良薬あり
時疫に流行年々一二月より三四月まで八遠三全収ふ
元弘店 西村屋與八

蘭方玉屑

傷寒瘟疫温病流行感冒咳嗽一切之病症并婦人小児之諸病おにも略之

江戸元弘店　西村屋與八
小石川春日町　大黒屋長右エ門

五臓調和 調氣圓

この薬ハ五臓の労症を治し心気を補ひ肺ふあり気を降し痰を去り食を進め血を生じ経水を順にし腹中の諸虫を殺し小児の疳積を治し婦人の血の道を治し其功能ハ数多にして尽しがたし

信州善光寺新町小松屋惣右エ門精製
江戸てうふ町砂糖店大坂屋三右エ門取次

鬼血丸

信陽　北澤始芳製

壹包藥料　銀壹匁

製藥所　信陽　北澤始芳

漢楚實擬選軍談　毎編八冊　三篇出来仕る　曲亭馬琴作

千代褚良著聞集　毎編八冊　第二篇出来　北尾重政画

落噺年中行事　全四冊　林屋正藏作　歌川貞秀画

其小唄戀情紫　中本　全六冊　狂訓亭春水作　歌川國直画

忍笈時代小時繪　各中形　袋入小本　立川焉馬作　香蝶樓國貞画

条四山更紗團扇　篠塚太郎物語　各中形　袋入美佳本　揚舟先生著　赤繪指南　全一冊　名焼付獨誓古

浦嶋太郎玉の玉産　美艸画帖　黒油美本香　東都　本問屋　馬喰町弐丁目　永壽堂　西村屋與八

前帙後帙合七
帝自
手揃万
画工
仙
歌川國貞